

2014年度第3回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（確定稿）

- 開催日時：2014年9月9日（火）18時30分～20時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室（4階）
- 出席委員：五十嵐委員長、小嶋委員、松尾委員（以上、3名）
- 出席職員：丸木地域福祉課長、妻屋ボランティア・市民活動センター係主査、中澤主事、利光主事、長山コーディネーター、渡辺災害ボランティア担当

【配布資料】

- 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2014年7～8月)
- 2：コーディネート状況等月次報告(2014年7～8月)
- 3：ボランティアコーディネート実績（2014年7～8月）
- 4：2014年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（9～10月）
- 5：2014年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議<未定稿>
- 6：今年度運営委員会の意見から
- 7：2014年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>
- 8：夏！体験ボランティア2014交流会資料

- 委員長より開会のあいさつの後、会議の成立について確認がある。
- 会議は過半数の参加により成り立つので、3名では議決行為は成り立たない。しかし、事業の報告等でご意見をいただく場として開催いただきたい。

1. 報告事項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告（2014年5月・6月）について

○事務局より資料1～4に基づき、2014年7月・8月の業務について報告を行う。

○以下、質疑、協議が行われる。

委員：夏！体験ボランティア2014交流会資料の中では、昨年との比較として保育園への参加が300人とあるが、今年の数字と大きく隔たりがある理由は。

事務局：昨年の300人という数字はのべ参加人数の提示で、今年は参加者数で集計しているので比較はできない。

委員：のべ数と参加者の頭数では意味が異なる。今後は両方集計できないか。

委員長：昨年実績と比較することは大切である。今後行うのであれば、そのためのフォーマットを整えてもらいたい。

委員：夏！体験ボランティアのチラシは目を引き、わかりやすく良かった。

委員：夏休みに取り組む事業なので参加者の中心は学生になっている。であれば、ターゲットを絞り込んだチラシにしてみてもどうか。

事務局：過去の経緯として、運営委員会で「対象を大人までに拡大してみても」と意見をいただいて取り組んでいる。ただし、今回ここでターゲットを絞り込んでみることにについて検討するのも

1つの方法。

委員長：参加者無しの受入先もあるが、これをどう理解するか。参加者をもっと増やしていけないか。

事務局：受入先を拡大しすぎたと考えている。

委員：壁に張り出された受入団体のシートを見て、参加者は活動先を選んでいるのか。

事務局：参加者が活動先を選ぶ際に、受入団体のシートに記載されている内容を確認しながら選択している。活動内容がわかりやすく説明されている団体が人気になっている理由と考える。

委員：人気の理由については、今からでも分析して、来年度の事業に反映させてもらいたい。

事務局：体験ボランティア活動終了後にアンケートを行っているので、そのアンケートの項目を増やし「人気の理由」を拾うこともできると考える。

委員：夏！体験ボランティアは子どもの時からボランティア活動にふれられる良い事業。

委員長：学校や先生の考えも影響するので、チラシの配布方法も考えてみる必要がある。

2. 審議事項

(1). 2014年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）の確認

- 前回運営委員会の記録について確認を行う。要点だけの記載になったのでわかりやすいと意見をいただく。本日は出席委員が少ないので、本日の状況報告を行った上で各委員からの確認を行うこととする。

3. 協議事項

(1). 2015年度事業について

委員長：9月3日に東京ボランティア・市民活動センターで行われたセンター長会議に出席してきた。

運営委員会のあり方がテーマ。国分寺・調布・狛江の報告を受ける。調布では運営委員会をどのようにすべきかについて時間をかけて協議をしてきた。その結果、視点や軸を定めて事業を評価している。「自立した市民参加ができていないか」ということの確認を行っている。

運営委員会の働きかけやボランティアセンターの活動が知られているかが、ボランティアセンターが活発かどうかの1つのバロメーターと感じた。

委員：運営委員会を考えたときに、この出席状況はどのようなものか。様々な角度からの意見を聞くことができない。開催時間等不都合があるのであれば、見直す必要もある。また、ボランティアポイント制に取り組んでいる地域では、ポイント制の対象者を高齢者のみとはせず、子どもが活動してもポイントを付与して、ボランティア活動者を増やすよう働きかけている。

委員長：調布の委員長は商工会に属している。若い運営委員も多かった。自営業の視点からの意見も多くいただいていた。

委員：やはり各方面からの意見をうかがいたい。

委員：現在は働き方も多様化している。働いている人にも運営委員会に加わってもらいたい。

事務局：今の若い人は、平日働き、土日にボランティア活動を行う。そのようなことを支える団体もある。やりたいことには時間を割き、土日のボランティア活動で生活を充実させている人達もいる。

委員長：経済的充実の視点から幸福追求の視点に変わってきている。社会のうねりが変わってきてい

る。ところで、今週末から災害ボランティア養成講習会が始まるが、状況を教えてもらいたい。

事務局：定員 20 名としたが、22 名の申し込みがあり、22 名を受け入れる。男女比は 6 : 4。平均年齢は 59 歳。募集の際に示した内容の一部プラスされている。特に 3 日目には民生委員さんにも聴講してもらえよう働きかけている。

4. その他

(1). 次回運営委員会開催日程について

- 以下の内容を確認した。
 - 多くの運営委員に参加してもらえよう事務局から連絡を取る
 - 開催日時：11月11日（火）18時30分より
 - 開催場所：田無総合福祉センター第3会議室（4階）
- 以上をもって、2014年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会を終了し、閉会した。